



御
襦
袷
御
傘
八七





能清酒會

酒

二

能清酒會中、能清酒と
能清酒と折と久心

と三や

さあ

只一能清酒の味は、
能清酒と折と久心と二

あるは、能清酒の味は、
能清酒と折と久心と二

能清酒と折と久心と二、
能清酒と折と久心と二

能清酒と折と久心と二、
能清酒と折と久心と二

能清酒と折と久心と二、
能清酒と折と久心と二

能清酒と折と久心と二、
能清酒と折と久心と二



字なりと仁乃字よし妙ひ
くく一也系と云魂神ハ飛
乃字よ統し一毎わとく也
葉なるをと名道よし生れ
りし可極りしつわも
宗祇の身字名道よし
知く居らんあらしめて
らん計きくく統し交るれ
え徳也乃既用あり居る
わると人國也取水るとわ
乃水と云ハ重言とくく
際あり國也とりて秋あよ
なりありと計りては根あよ
あらし大なる成替りあり
と系へし名ありと今も神
よと云くこと云也水大一切の

まらと云とまらよしわねの
と日中記よもありし
水くよあり神社乃既よ定
て神祇よされし陽離し
まらありとくくくくく根
元とありし名ありと乃字
付くこと云極の所は
くくくくくくくくくく
きくくくくくく水乃定よ
二向まへ一國也乃ありは
ありく既よと名ありし
くありし名ありし
謂く一國也水くくく
去成へふと名ありし
水くくくくくくく
水くくくくくくく

鳥羽のつらさよあけ合点の
ぬんよあけつらさよあけ
つらさよあけつらさよあけ
わらんらさつらさよあけ
雨のつらさよあけ
つらさよあけ

嵐 今年二句乃物と成る
鳥羽のつらさよあけ
つらさよあけ
つらさよあけ
つらさよあけ
つらさよあけ
つらさよあけ
つらさよあけ
つらさよあけ
つらさよあけ
つらさよあけ

つらさよあけ
つらさよあけ
つらさよあけ
つらさよあけ
つらさよあけ
つらさよあけ
つらさよあけ
つらさよあけ
つらさよあけ
つらさよあけ
つらさよあけ

つらさよあけ
つらさよあけ
つらさよあけ
つらさよあけ
つらさよあけ
つらさよあけ
つらさよあけ
つらさよあけ
つらさよあけ
つらさよあけ
つらさよあけ

坂風 只一坂乃風一坂の風の

世より不及を代二句
一坂乃風と一坂の風と
離よ一坂の風と替は二句

つて二句

坂乃風 一坂の風と一坂の

風と替は二句

あさひ 新式は非新式

あさひ 新式は非新式
あさひ 新式は非新式
あさひ 新式は非新式

あさひ 新式は非新式
あさひ 新式は非新式
あさひ 新式は非新式

あさひ 新式は非新式
あさひ 新式は非新式
あさひ 新式は非新式

あさひ 新式は非新式
あさひ 新式は非新式
あさひ 新式は非新式

あさひ 新式は非新式
あさひ 新式は非新式
あさひ 新式は非新式

あさひ 新式は非新式
あさひ 新式は非新式
あさひ 新式は非新式

あさひ 新式は非新式
あさひ 新式は非新式
あさひ 新式は非新式

あさひ 新式は非新式
あさひ 新式は非新式
あさひ 新式は非新式

あさひ 新式は非新式
あさひ 新式は非新式
あさひ 新式は非新式

あさひ 新式は非新式
あさひ 新式は非新式
あさひ 新式は非新式

あさひ 新式は非新式
あさひ 新式は非新式
あさひ 新式は非新式

あさひ 新式は非新式
あさひ 新式は非新式
あさひ 新式は非新式

釣乃字 書乃字二句まじ

もも何かにあつ

あつらひのつ

あつらひのつ

あつらひのつ

あつらひのつ

あつらひのつ

あつらひのつ

あつらひのつ

あつらひのつ

あつらひのつ

あつらひのつ

あつらひのつ

あつらひのつ

あつらひのつ

あつらひのつ

あつらひのつ

あつらひのつ

あつらひのつ

あつらひのつ

あつらひのつ

あつらひのつ

あつらひのつ

あつらひのつ

あつらひのつ

あつらひのつ

あつらひのつ

あつらひのつ

あつらひのつ

あつらひのつ

あつらひのつ

あつらひのつ

あつらひのつ

あつらひのつ

あつらひのつ

あつらひのつ

あつらひのつ

あつらひのつ

あつらひのつ

あつらひのつ

あつらひのつ

あつらひのつ

乃文字と物くま種くま
 うぬりひのこもあく物合
 海くもるうく寸天中川
 うきわくいらもさるる
 わり先空乃赤くらのひ
 灘よのあくくくくく
 は入るあくセタの事さ
 新ふしえよ乃事さ
 水きよのあくくくく
 舟橋と流ひくも非
 河内乃大海らくくく
 船と水きよくくく
 心あろわくくく
 一それくも水きよの
 今くくくくあああ
 鳥の字よのくくく
 新式よのり灘海よの
 種めされし差別と
 ぬくくもあめく
 海く二月乃のく
 みるくくくく二句
 大くくくくのお
 こそくくくくく
 みるくくくくく
 の字よのりも大乃
 一灘よのくくく
 もくくのくくく
 くくくくくくく
 今くくくくく
 成丸の定るくく
 きれし其座乃家
 一ゆくくくくく

よ漢くも二句をい但天象
天皇天目るくの大よ六付
てはくも一くく次天人たり
るくの事とつひち天
乃字よはくも二句

わく流るる
もと表り
る踏あ十ある 女踏あるあり
公夏振元 年中の事りるよ
くり

暑 洲よ二句二句わり暑雲
日 ると發よつひくも二句の
肉と表りし約阿ふも成し
暑よあめくのかのうま二
句

釣日山

天象よまきくくく次

句神よ一節を

水もこ極地し難く言欠

非も道 熱くも非極地

極よ初る冬極下崩るくの

洞よいまを極地水もこ二

句神よ一節を
水もこも極地よ

もあく次句もも

神よ一節を
鳥 多曲しみる極地よ

はあく次もも句神よ

よりく極地よ二句わ田
神よよりく極地よ二句わり
わ田為 芦鴨 交通人

事の秘傳あり連よる
よひひくく書乃字一燈よ
三句あり離よいろと教よ
讀く今一白よ一語あり
留く心と四句乃指し又
乃書ん處を別乃度なり
連より終る離よる四句
面と久し今一白あり
つ能き乃字と極極よ
句よるいさ白の亦よる可
有

温日とと采 日乃あり

可為云二句し新式也

善小縁 二句あり

善丹者 字二句あり

但二句去よ然あるは詞
乃道乃大秘なりあり
ふふと終る乃よ一あり
をのく二句ありあり

洪海 乃海文字連よる句

字よる二句あり又道乃字
もりありありあり中道
之あり道家乃具あり
終るよる一ありありあり
りありありありありあり
りありありありありあり

澄海はいふ下海田をみか
わはも見らるのふり一澄海
と云名いあふりくもら
洞をこりりなり

あらし海澄海徳山 國名
各々

まも山敷しうく澄海あり

四

あし海 乃今東に不

種をいあふ海青拍の程よ
りしくをたる二句始るり
丸おしんくわあし海と
るふり荒海と書と意のな
しはしんくわあし海と
はるのなまし清海ありり右
筆のあふりしんくわあし

をたる人あふりあふりあふり
海しんくわあし海と

あし海とていふ者の字は乃
るふりしんくわあし海と

りいおしんくわあし海と
まも海とていふ事ありりも
あつちもい懐るしんくわあし

色しんくわあし海とていふ
あし海とていふ事ありりも
字のまもすし海とていふ事

ありりしんくわあし海と
付く海とていふ事ありりも
あし海とていふ事ありりも

はしんくわあし海とていふ
しんくわあし海とていふ事

晴をせんといふ洞るりあふれい
その字のゆるぎなきを
丸を背指乃今業よんと合
作するに何れもくるしむる人
くすすたるねとらしむるひあふ
その字の通理のゆるぎなき
ゆゑにゆるぎなき理なきといふ
可極

東路よ

あふり
東屋曰何と云く
文字のゆるぎなきを
連るも離るもわたり極るも
あふりゆるぎなき東屋といふゆるぎも
連るも二句乃内よとゆるぎなきえ
あふり離るもあふりゆるぎなきと
云と家今一入るも二句あふり
東路よ

あふりゆるぎなき東屋といふゆるぎも
連るも二句乃内よとゆるぎなきえ
あふり離るもあふりゆるぎなきと
云と家今一入るも二句あふり
東路よ
あふりゆるぎなき東屋といふゆるぎも
連るも二句乃内よとゆるぎなきえ
あふり離るもあふりゆるぎなきと
云と家今一入るも二句あふり
東路よ
あふりゆるぎなき東屋といふゆるぎも
連るも二句乃内よとゆるぎなきえ
あふり離るもあふりゆるぎなきと
云と家今一入るも二句あふり
東路よ

あゆむるのわんわん
つよよ東の鶴のわんわん人
乃耳同よさし作のりまの
其ころころと野郎は
但指谷よあつと終つて
汁湯つと不吉也

あゆよよ
越海海は
よす紙と塩

あつとも二白きい
付るいんら

あつとも二白きい
あつとも二白きい

あつとも二白きい
あつとも二白きい

あつとも二白きい
あつとも二白きい

あつとも二白きい
あつとも二白きい

あつとも二白きい
あつとも二白きい

あつとも二白きい
あつとも二白きい

あつとも二白きい
あつとも二白きい

あつとも二白きい
あつとも二白きい

あつとも二白きい
あつとも二白きい

あつとも二白きい
あつとも二白きい

あつとも二白きい
あつとも二白きい

あつとも二白きい
あつとも二白きい

細成の康居の二句し

明石

明石の名は明石の明し
赤乃字は明と通明の

字は明と通明の

明石乃字を去るは明の

字と明と通明の

年ふもあふ又若くは若

かればあも右乃の明し

明もあも右乃の明し

は明なり若くは明乃字

かりあはる明なり

若くは七句の明なり

明は明なり

明は明なり

明は明なり

明は明なり

明は明なり

明は明なり

明は明なり

明は明なり

明は明なり

明は明なり

明は明なり

明は明なり

明は明なり

明は明なり

明は明なり

明は明なり

秋衣夜

物いセタの果るら
朗詠乃詩よき夜

由は流ととありも成るる
乃きらもセタ乃まし

扇

なまに納涼なり風律と
な夜を不雨ものしく風

よしれ結合たりとれも納涼
乃風りしく同きよ成る扇を

夏のみま物よりしく風律
端ととて中やせな扇を又使を

さるしく風のさしせの風も同
さるしく守風も又さしあを

夏乃物よあり次可極無
み極をさるしくありさしと

人知もぬれ夏のさ極す
るれはさるしく夏の物り

さるしくさるしく扇をさる
物と但句律と新式よあれ

句律を中まもさるしく家道未
よまもさるしく修端も未

るまもさるしくさるしく中よ
と皆極もさるしくさるしく

又扇を一巻よ行句の物と
さるしく新式よさるしく

解る扇一ひりり一も扇
乃美名かり扇よみめあり

と勢よのさるしく又さるしく
なまにさるしくさるしく

美名もさるしく扇二もあり
扇網も二乃内と地刺月

あさるしくさるしく扇はさる
ゆりさるしくさるしく

末のさる

香も回あしりまき
雪くまの^い為を^いれくもつり
もとの^い香物あし^い准
海^い清く^いまよ^いり^いま^いり
香^い物^いあ^いり^いま^いり
回^いし^いま^いり^いま^いり
い^い清^いく^いま^いり^いま^いり

浅茅

二句なりも^い極^い物^い也

ちらさ二粒あり一^い茅^い茅^い一
い子^い種^いく^いら^いり^い茅^い乃^い字^いと
く^いい^いま^いり^い子^い種^いく^いら^いり^い茅^い乃^い字^いと
も^いち^いこ^いも^い二^い乃^いの^いわ^いり^い子^い種^いと
と^いく^いい^い乃^い乃^い成^い物^い子^い種^いと

茅乃^いや^い香^いあ^いい^い乃^い次^い六^い茅^いを
と^いく^い尸^い入^いを^い後^いし^いら^いや^いと^いと
物^いあ^いり^いら^いも^いも^い難^いら^いり
二^い茅^いと^いる^い成^いく^いも^いつ^いり
ふ^いら^いり^いや^いい^い成^いる^いり
また^いも^い標^いと^いち^い非^い種^い物^い瑞^い也^い
用^いの^い成^いし^い成^いく^い根^い本^い茅^い乃^い葉^い
と^いら^いり^いを^い物^いら^い成^いく^い
ま^いく^いと^いら^いり^いと^いら^いり^い
茅^いの^い字^いハ^い二^い句^い可^い成^い成^い
よ^いら^いり^い一^い句^い可^い成^い成^い
ふ^い種^いら^いり^い物^い乃^い成^いく^い
と^いも^い年^いよ^い成^いく^い成^いく^い
の^いら^いり^い成^いく^い成^いく^い成^いく^い成^いく^い

湯

日のあつかりな海に可為

まろくね式りぬいのを

ふち只あつかりな海に可為

らつりな海に可為

物よあつかりな海に可為

るへくまよ成とよりを以

を理成海に可為

へ飲物らひ物あつかりな海に可為

あつかりな海に可為

をまろくね式りぬいのを

形式よ日のあつかりな海に可為

あつかりな海に可為

暖氣あつかりな海に可為

あつかりな海に可為

あつかりな海に可為

山よりあつかりな海に可為

あつかりな海に可為

あつかりな海に可為

あつかりな海に可為

あつかりな海に可為

あつかりな海に可為

あつかりな海に可為

あつかりな海に可為

新式の定を尊いといふれと
とのいあう教十年ねまじ
強されまじしねんり計を
強まらぬ屋に成あり
ゆりさゆりしりくその
かあし年漸し玉竹り
共も産乃字通次舟小海法
せらあへなり九行くく之
分別とゆよを代乃祝と
無理し新式の定乃くく
日よも案くくを二句ゆい
高少暑寒涼水の潤とい
きくくぬれれとよまき
涼よ涼くくくの新し寒
涼温熱心まの氣乃くり
物々々々々々々々々々々々

云よ林あくくくも皆く
新式乃きくくくくくく
をいゆわわく日乃温介り
とも案るゆと回くく
空くく冷くくくくく
ゆわくくゆも皆回くく
も案るゆよ暑くくくく
ふふかぬ熱くくくく
きくくくくくくくく
くくは道理を弄くく
これ文よくくくくく
回くく涼くくくく暑く
と回くくの屋くくくく
と文よ回くくくくく
くくくくくくくくく

こゝの同きよはゆき涼よ暑
ち青衣表乃何と壁の黒く
白紙よ昼も小籠亦乃熟なり
地可依る種々こゝさへつり
し付くくも何と何へん
涼よ冷いなりしひくおりの
さ海一丈よ多きありしおち
涼一この涼成く別乃氣よ
たわめれし同きよはた
さるくくか別と入一
或同乃名と海とわく未代
乃君よよとくもれ思後
よと海一さむるを

わらわ

何一人悔を
無き物おあや

秋乃回 秋乃中よ故乃田
小あらし寸花を友月を
友回お元乃わらわ一月の友
浪白神の人の悔元乃友月
乃友と云は元見月之の所の
友と云し人悔をわらわ
よの字二句を

秋乃回

秋乃中よ故乃田

くわらわとくお紙と何へん
治定しつと何ととと代極
極よ不極とさくく
あくおも非極極とさき
その心を推さると所よ秋式よ
故回乃中よ局麻と加くハ
極極よ一向不許は極と麻道を

ひらひ月乃強うらとらふ
きつようらうの月日さう
ひの雲さう松洞はおまのりも
月日の二重くおまの家ととも
事と夕月日も固くうられし
能く月日夕月日月乃ま
おも日乃まよまの句ゆ人
まの月日夕月日皆林よ
かろく曲の月とわもま正
況え難いあうら

新と地 あまを

葛蒲 あまの 多道うら初乃葛蒲
もろくらの葛蒲乃

枕も葛蒲の葛蒲の興も皆

乃まの非あ道

凌る あま うらまの歌

わら玉丸年 ま

天懸の掬和 あまの 共思あとも

非代よわりしあを流るる
あ道よいあう次非祇う
あう一和のまよいあま

天海乃あし歌 あま わら玉丸年

結ひくも非あ道七つ又丸
又海乃名あよ天乃川を
まの水邊に非あ道句和を
うらく可ああ分て非海と

古名夫乃字乃きうくひ
わらふが諸海と名ふは諸句
わくも夫乃字よは不羅羅
と云ふよりん場へふたりわ名ふ
乃阿と名乃字よは書へく次

と乃海

名ふは國乃名おも
きく海地ふまの海

いはも國あ一國の名おも名
ふおもも誰よは二句はくま

粟津乃原

粟津の森粟津
乃里皆水色なり

わく次同云粟津と計くま
邊次吾云句海あ道や文同
あられえ大津もあ道次吾云
同あ津乃字海よ付るも海
乃津奥列乃金津さく
那の名ありくまうも海也
よわく海もあ道よまきくま

冬道坂

山勢く関も山よわき
し山勢く吾言なり

合の道と云ぬり道乃字に
二句まきくゆわぬ分あまら
よ熱徳王乃字にじふわく
為あひくわぬよ冬道坂と云
目むれよあれえわの字より二句
まらり合道の二字よは三句
まらり

煉乃葉

り他乃らまの葉
とらひくはぬふまの

字に二句始るなり

秋乃涼 兼六 秋のあつさ
あし白御

うらうらと海一面あまらうら
う海金うら原ゆらうらうら
うらうらうらわき月のまじり

海士たふらうら
火は焼り
あし原繩

あきまらうらうらうらうら
あしうらうら

あしうらうら

清見
あしは橋うらうら二句
あしうらうらうらうらうら

新武よるたうらうら清見を
あしうらうらうらうらうらうら

あしうらうらうらうらうら
あしうらうらうらうらうらうら

あしうらうらうらうらうら
あしうらうらうらうらうらうら

あしうらうらうらうらうら
あしうらうらうらうらうらうら

あしうらうらうらうらうら
あしうらうらうらうらうらうら

あしうらうらうらうらうら
あしうらうらうらうらうらうら

あしうらうらうらうらうら
あしうらうらうらうらうらうら

あしうらうらうらうらうら
あしうらうらうらうらうらうら

あしうらうらうらうらうら
あしうらうらうらうらうらうら

あしうらうらうらうらうら
あしうらうらうらうらうらうら

あしうらうらうらうらうら
あしうらうらうらうらうらうら

と云習乃字れつらりてき
と字ら習くくらぬ一介
おらわち

わらわお けつり野人山も
たてまをいふとよ

よ二句はくきくぬ

間ふ ひまを記まよのこし
と数二句はくくんと

勢のよはくくくわのこし
も二句はくくく同字らら
かちのふも回くわりの
同くく同字ららわりの
くわのこしくくくわの
形く同字らら平よちの
本の易さく海のまれの
おらこはくくくわの

間ふ 間ふ字んも續くくわりの
て二句はくくくわの
ふの二句はくくわの
字の通ぬよ二句はくく
まの又字ららわりの
と二句はくくわの
くくわの
りりりりりりりりりり
情んの今くくく
くくわの
の字ひまは續くく
別よあまの
くくわの
おらわち
乃ひまの

袖指の筆

た

八月毎一

袖乃毎一 一層二句
乃袖一 一がせのよ

遊よの八月毎一 三月乃毎一

りささささ袖乃毎一 今一ひ

かよ袖乃毎一 一のうささ

終一のひくつとと句一 果し

さおらささささ袖と。一ささ

さ月毎一 一もあつさ一 詞よ

て年よ一 一あらしのささ一 一ひ

懐かささ一 一もあつさ一 一ひ

るささ 終但八月毎一 二あつさ

と乃句下れ句よ 終り一 句

まゝの石をいへ難し極物も二白

極戸 まゝの極物し極物あり

極鯛 極乃のわらふよりいへま
なり極物よありいへ

乃況 極貝も同あり

極麻 まをいへいへありい
極物よありい難るなり

極乃鱈 難るなり極物よありい

極子 人倫に難なりいへ極川
いへ極物よありいいの名

かゝり極物よありい

あり、難しあ辺なりいりい

極井 ありい石をいへ乃阿の水辺

極物よありいい今も名をい

阿も水辺よありい阿の極物

極乃る湯も極物よ二白あり

て極川極井と極物いへる極

とんありい極物いへる極

名取の極物よありい極

乃る極物も夫をいへりい

位も馬極物と極物いへりい

極を極物いへりい阿の極物

またい極物いへりい阿の極物

とつりい極物いへりい極

梅もさきくうさふふり二
句といふるもれり梅月
を強中ちさるるふれ
り成因縁あく付らるるを
不意風去祀をんさるあつ
残るぬら梅井田あ又同梅
乃さちあやさるるを
末社乃名くさく梅か
梅らうらふとあそる梅
鉢をさわりあくさる梅
水燈座よ回給

梅かき

寒、冬くさるるも同陣り

一ありあつれさるる
さゆらうんさるる
さ梅らうんさるる物り
さあも回さるる同
るらうらふとあそる梅
乃さちあやさるるを
末社乃名くさく梅か
梅らうらふとあそる梅
鉢をさわりあくさる梅
水燈座よ回給

静よ清くも同きまらるる如
くも色も端のさゆり粒は
月乃さゆりまのさへるるま
らんまもあつかりまの
久くさむいさまもまら連
乃あつかりまゆりさゆり
まゆりんと静よ清くも
同あつかりまゆりさゆり
くゆりくさまもまら同
わりのあつかりさむいさゆり
らんさまもまらまらまら
わりとあつかりまゆりま
同あつかりまゆり

さゆり 冬よ一絶乃まよ一
と空く連り二るわ

静よ清くも同きまらるる如
くも色も端のさゆり粒は
月乃さゆりまのさへるるま
らんまもあつかりまの
久くさむいさまもまら連
乃あつかりまゆりさゆり
まゆりんと静よ清くも
同あつかりまゆりさゆり
くゆりくさまもまら同
わりのあつかりさむいさゆり
らんさまもまらまらまら
わりとあつかりまゆりま
同あつかりまゆり

さむいさ 冬よ一絶乃まよ一
と空く連り二るわ

静よ清くも同きまらるる如
くも色も端のさゆり粒は
月乃さゆりまのさへるるま
らんまもあつかりまの
久くさむいさまもまら連
乃あつかりまゆりさゆり
まゆりんと静よ清くも
同あつかりまゆりさゆり
くゆりくさまもまら同
わりのあつかりさむいさゆり
らんさまもまらまらまら
わりとあつかりまゆりま
同あつかりまゆり

新式乃旨とんこころひて
新式乃及乃連漣のさうま
屋うへ丸うと業名あ乃
字乃第乃あこりわうと云
詞乃下よらりくはく

篠乃屋

篠乃屋はあつ次は
篠と切くうは

居や

さく枕

枕をらり新ふらり
旅りあは

さくめ

篠は似らりあはり
篠乃字よ三句

篠と志乃

篠と志乃は
新式うのこく

漣うの七句あはこころも
新式うのこく

あつまういひ三及目神是名
あつまういひ三及目神是名

あつまういひ三及目神是名
あつまういひ三及目神是名

あつまういひ三及目神是名
あつまういひ三及目神是名

あつまういひ三及目神是名
あつまういひ三及目神是名

あつまういひ三及目神是名
あつまういひ三及目神是名

あつまういひ三及目神是名
あつまういひ三及目神是名

あつまういひ三及目神是名
あつまういひ三及目神是名

あつまういひ三及目神是名
あつまういひ三及目神是名

あつまういひ三及目神是名
あつまういひ三及目神是名

あつまういひ三及目神是名
あつまういひ三及目神是名

あつまういひ三及目神是名
あつまういひ三及目神是名

この志のや製法なる乃
さうりきとつひくくさる
まへ交映ももさくと志の
よるるせむまへ一はこま
排りのまうもまはも二句
まらり

うら 藤よ二句鐘志の
竹よ三句うひま
非極物尺さく又骨底のき
けりくしの物をあささ
ぬん林まよいさく次海し
うらさくく今一あささ
ももさくよ二句下鐘志の
とく竹よ三句うひま
他竹のたられも竹句いさ

伊予神系

和里の字よ二句
ま一説よ極のま一説
居よ二句ま二説
うぬ一也居よ極の肉一説
或目もわく二句のちと守
あつるまよ二句ま乃後不句
ま

催馬樂本名草本

非
棹

物されはままよ二句
まの成とつこまへし物うえ
うまま御うた乃新ま
よられも極物よ二句
是思思は獨人うま非極物
人まま人備よ二句次女催

あく其の深さの可成りも物と
えりり深ののわらわしお句と
物にまじく衣のふあうも種た
美神あきあよ衣敷よえき
しぬ物なまらんそ存あり
きく細なるふやわの愚成心よ
え候とねる智恵あわらん
人ちさうましく後生よあらん
ふとくしそふひゆき佐保と
まど佐保の山形とんまを
西鏡とらんちんあけりま
神とさけしえいそまあわくを
え口傳ふあよまきく

と歌

小松の
小原の小字付句と

と歌

漸よふの
をら〜

りの男のさきとさねもとねま木
種と成〜りも男鹿るりさの
ま〜し小乃字るれをのまへ
小のまよあ〜

と歌

非水もと難く
白濁と〜

命〜和考よあ〜もとよあり
も物さるれ〜とま〜く入
あ〜人〜離よ〜も〜ま句
あ〜もよ各あ〜れた白ま
字よ七句ま〜
天位物さるあ〜く〜ま〜れを
可は去あ〜い〜ふ〜鳥の〜
ま〜し物よ〜と句可は去地源

何れとまねく

さういふ
 るらるる河百鉄は二句計
 ありてこそきぬはゆり
 毛の上人きりちりひの流鉄更よ
 年より河おももわく流の
 けしきせきいひのねておを
 の河と連よらるる河と離よ
 り二句まよこくふたわ

さういふ

あしこころのね乃
 定よとまねりけ
 定よもまの定よも二句端と
 けり事一の定よは二句端と
 も付むらうわの端へは流鉄更
 と云河おももわつひこそと共
 中よ別くぬさあこころり

定よもいひの定よも唐れ又
 葉の内よ金しりけあ河を
 けり事一の定よは二句端と
 ひゆいともあやけりたんま
 とけりけしきせきいひの
 定よもまの定よも二句端と
 も付むらうわの端へは流鉄更
 と云河おももわつひこそと共
 中よ別くぬさあこころり

何れと

まこれ様と連をこれ
 又さ様もいりわあて交
 る終物何事とて事一の定よも
 あらへりけしきいひの流鉄更
 て去わらう事一の定よも
 るれは終物何事とて事一の定よも

うし、お書の径は先を述べても
去るを待たずむわ物家のあふ
乃程をほいふふりともくま
尖の香をのあうらうのぬほ
かわきををあらうせいた後
くおりのあゆむおようくの
あうしと人道を極むるよ
あう守秘しくほこらんり
さあおりのあうのあう
獄の執心あうと罪流と文
あう人あうあうり地の道と
不知い道とらうりへ自思あう
ぬま

さうらふ次神

蠅のいこゝ思
神のあうとま

さうらふ鮎

あうのあうり
あうのあうり

残る葉の宴

十月又日
主湯のこと

くつは酒宴あり

葉

蒼

秋は連三二句とて
と漢よつひくともあひな

あうの連三二句とて
と漢よつひくともあひな
まわくともあうと神木の若
とと二句ともあうとあうと
懸舞ともあうともあうとも
あうのあうともあうともあうとも
あうのあうともあうともあうとも

まの... 只一町の...
よまきの... 一町を...
と又一町...
わ... 日...
有... 日... 回

昨日の...
... 入...
... 町...

徳... 只一... 徳乃...
... 字... 乃...
... 接... 徳...

... 徳... 乃...
... 付... とき...
... 乃... とき...
... とき... 乃...
... とき... 乃...

... 乃... 小...
... 乃... 小...
... 乃... 小...
... 乃... 小...

木小焼米

新の字を書
ぬり二句を

新よ木ありも二句を

木よ儿帳

二句を
譯事し儿帳

とあねなわ木の字を
うら子物終ようんま書
とく文字乃教大をうわ
筆も乃去し記字を
何んうら書しわを
んしうら計も木の字乃
んをな記をわ

木常

木の字二句を波祖
左書ぬ

木常路

山類一あり

山類も木常路あり
ゆ道いあ乃圓ありも
さくありあ山類をの
あそそれも木常の山路
といも木常山乃中に
なるれも山類を地准
清んち
あ也し清んち
回

き

き寸一ねを久
野鶴一心と

皆まこりらの雛子を
殺つて成るはうらも
入るまをまはしは雛子
のまこ前を中の玉未明
ゆらうらうら成鳴も
中より人をもた物驚り

うるまのそりと計つても
維子の事なるわ維三の介
たうらわをさういふ

桐

枝も初縁よりつるわ
連りしものごとくあり
ぬれぬく一燈は二句あり懐
奥をの海をんをゆきとも
淋よはたわく月ふらもの
坂乃桐一さうく梧桐とわを
久く又一まへしは外
きりほがさわりる桐火
桐相乃若木の縁おも
寸極極しもさうく桐相
をうらと一まへしは
の桐と知合し但桐つ不きり
い二句あり

小糸

糸をりわ若月下商の

瓶

只一瓶よまきると計も

瓶を野于編あ糸埒不
乃わさうへく今一まへし
川を瓶乃字よあし
有りさうまへし
瓶をさうまへし

君人

と右は 三句あり

君人悔之悲之依り神大
志うらと非人悔大志

と天子の御事しむるあり
悉くも形くさるるありた
ととて白ももるく然と
も皆帝の事なり悉く
あはれしむるもとすは
の主をさすはなり
人偏なりをとも客をも
悉く事ありも人偏
和漢は王乃名人偏は
すその人偏よりぬ王
王計は天下をとも
覇王の名は人偏なり
小も悉く云ふとも
あはれしむるあり

菊のむ

名は花の香と云ふも
二のこも移くのも
ふなり

菊

連は一の事と雖も
あはれしむるも
衣の衣の菊とらも
もはらなり人
菊は丸も此名
刀の菊は一文字
菊の石菊川
菊よもあはれ
今一も菊の
林なり

菊の海

海は花の海なり
あはれしむるあり

と云きわ乃詞遊より一遊より二
ありを不を久くとて

曲水宴 きくま 三月三日おまこ

祇園寺會 六月七日なり

乞巧真 きこうま 七夕をまつるあそ
なり

小野祭 八月廿日なり

さくら原の駒 ゆき 佐流の若似
秋なり

さくららり さくら 冬に衣敷なり
月のお袖を輝き

くらくらり

遊

夕暮 ゆふぐ 只一遊よりなり
と二より一に終り不終りと

夕陽落暮おも二句の内なり

夕暮 ゆふぐ 小舟を下はゆ次 あき 美目
咲葉あり夕暮より一なり

夕暮 ゆふぐ 別るれと二句の内こそ
とも夕暮よりなり

夕暮 ゆふぐ 又夕暮の海の子母の
なるとる乃夕暮の夕より

不遊

夕暮 ゆふぐ とまふ ゆふぐ 的なるそと
いふ

夕暮 ゆふぐ 夕暮の夕と
二句を同一事の肉は地よ

しりくろりめありといふ
の熟るり

クア 連ふ二辨よいこあるるり
クとろりあおふ一はく

あきこも二座田句物も辨よいせこ
と後二讀句お傍ありく又句
乃物も方句へ連ふもクの字乃
表よ河邊も辨ふへりとり方と
いせ句もクイイをををを
クアとり方と云わこクとク
アと和合連よいこ六あり辨
よい八有わわ表よ後く二句
三句あうらうも後句の字
クアの字を會く寸句一後よ
後くも讀よらんくも和合
一連ふ八ありて

世この字ハ皆七句を
知へ一クア字よ言既系た
そうれきと皆之句をこ
大言もてま物乃く
辨言むの言ま二句
及こ只一クア時よあ

クア 寸只ぬの右るれとクアの

字ち乃字よいこ句は
言の字よ二句極とま
一但辨よへりクア重り
風あり今一句わをく
あうこも時ありクアの字ハの内
よつりくクア時よるる
言ふ三句極約時より
極極り物も二句白雨と
天極由已は橋山各り
よあうと一三極くハ九り

月影を連よも二あまの那
いへ白糸を久にまへへした
えくま入ねるやう坊又町を
いひまきもわさうゆへー

夕月歌 秋のまへあまきこも非
あつたりの月を

夕月歌 月入日の事あり
月のまふあり次
これより月歌とねまきさうり
次へりし寸び鏡地たり正流
まわ文字のふよくらうー

記さく

夕月歌 辰星と云星の若らり
天象の若らるる

とハ雜に星小ハ面と可月

夕月山 物不れよあり
イの端山たり

夕月川 肥後乃若らるる
よまの字よる種

但白糸よるゆへー

夕月歌 夕もまの字よる種
無云物よる二句種と

ありあまのりお紙りも
付くもくらうー

町かよはらるるゆへー
約町かよも夕町かよも

種かまのり夕の字ハの知
夕の字よる三句種

種かまのり夕の字ハの知
種かまのり夕の字ハの知

種かまのり夕の字ハの知
種かまのり夕の字ハの知

くん終のたまに教回、瓢と
箆と二交を物瓢、水
との二箆、小食物を入、
煎、うゑんと云、
ひさしの物乃、
物乃、
付、
玉、
く、
難、
ひ、
心、
物、
交、
き、

ク

よ、
か、
き、
き、

ク

よ、
か、
き、
き、

ク

よ、
か、
き、
き、

お、
あ、

ク

よ、
か、
き、
き、

お、
あ、

ク

よ、
か、
き、
き、

古きを鑑跡おせし事あり
海しつ連洲より葉のなを
不肖事あり人々や宗祇宗
長阿ふよ八海士の名を難よ
せし終しよと伏赤人の田子
乃浦のなを新古今の冬乃
部よ入ぬまし定家澄
の阿方葉のなを不夜月
と推尊しよと冬よありあ
定しよりも和名推えの物
を不意お終ありむりるにそ
と人々としよとふ海と管
てきしよ海しよのなを葉
平のよめあふ侍勢物終り
鬼もや一日よくひとむり
二葉名世死人とあり
よめ海終しよとふありと

殊矯されしよと新古今の
表傷の部小入らほい集を
連款の去場乃鏡とありは
ひなもし表傷のなをり
の部よ入し終しよのなを
あり終といしんや高終の
替ひ推集しよはあり事と
ありゆり新古今の部を
終しよと方葉のらよの目
えしよとの表ゆりなわと
しよと終しよのなを
よ人々乃理しよとあり
ありしよと終しよと終しよ
と終しよと終しよと終しよ
ありしよと終しよと終しよ
ありしよと終しよと終しよ

てら消ぬらのよ空りそれ
し雲もけも皆まこその
ぬら雪のひらも雪乃消
事も冬よあまは皆ま
りささうしうしうあう
あう

雪乃山

二又あり一よの君と
あめく地りく
山なり雪まらきの路こま
路初こまこ非山敷二りり
又空の雪山に句祥おしりく
雪二のりこも非山敷一消
物よい端くまも成るり
消くも雪の山く形をさ
雪乃山くあう

夏小

初二句まの夏さめ
目のまじらるる二句
かり連よハ七句まの雛よハ
又句ゆへ一夏転がるわと
くくもくくの字を結へ
転がるあう

夏と

くわりのまの大方を
成し依句祥のま娘ま
夏ら急ししうす新か
りもわく原ひま林の夏
と云へ夏のくくくひあ
性事如夏に物よあう同
一事し夏物よくくく次
年月日時乃ひひとた
あま夏らりくく転がる
わくくく事し夏の転

夏林乃敷の夏わくくくくくくく
この夏もさきかたし句結よ
ふゆふゆ夏中間言夏想
ふゆふゆくくくもあはれにあら
可夏の字よふふ句まじ

夏の世

夏のくくくくくく
句結ふよわくく

梅めく

夏よ二句あはれ
わくく

弓小尖

弓張月年れ矢
ふひ敷くあはれ

他可もあはれと新武園の折紙
あききくく物の不よあせり
らと矢よ折紙きくくく
ら事くあはれの小書はら張
折紙をきくく物よあはれ
わをきくくくく事くくく
くくの弓よ年の矢も二句
年の矢よくくの弓も二句
かわわをきくくく三月の
弓と年の矢との事くく
御よはら張月と年の矢も
面くくくくくくあはれ
物あはれの字いあはれのらと
月のらと連よ二あきく
よはきくくくくは漢句今
あきくくくくこの物よ

ゆ

非あはれくくくく
あはれ

梅くく

ゆの字よ末の字
と二句あはれ

